

柏崎刈羽原子力発電所の再稼働問題について

議 論

論 点

1. 原子力発電所の必要性

2. 原子力発電所の安全性

・施設の安全性 ・避難の安全性(実効性)

3. 東京電力への信頼性

※ 地域のメリット

材 料

福島第一原発事故に関する3つの検証の取りまとめ

原子力規制委員会の追加検査を踏まえた判断

技術委員会における安全対策等の確認

原子力災害発生時の避難の課題への取組

背 景

エネルギー情勢、電力需給の状況、脱炭素に向けた動きなど

県民に正しく理解していただく

県 民 の
多様な意見

把 握

県 議 会

公 聴 会

意 識 調 査

首長との意見交換

県民の受け止めを見極め

判

断

県民の意思を確認

柏崎刈羽原子力発電所の再稼働問題に関する議論の材料

福島第一原発事故に関する3つの検証の取りまとめ

- 福島第一原発事故の原因、健康と生活への影響、同事故を踏まえた原子力災害時の安全な避難方法を検証。令和5年9月に3つの検証を総括

原子力規制委員会の追加検査を踏まえた判断

- 令和5年12月、原子力規制委員会は、東京電力が自律的な改善が見込める状態と判断。また、東京電力が原子炉の運転を適確に遂行するに足りる技術的能力がないとする理由はないと改めて判断

技術委員会における安全対策等の確認

- 国の審査内容、福島第一原発事故原因の検証結果、核物質防護に関する事案等を踏まえ、柏崎刈羽原発の安全対策（22項目）を確認
- 令和7年2月に報告書を取りまとめ、18項目については「現時点において、安全性に特に問題となる点はない」、運転適格性の確認等の4項目については「原子力規制委員会の判断を否定するものではない」との結論に至った。

原子力災害発生時の避難の課題への取組（直近の動き）

- 「柏崎刈羽地域の緊急時対応」について、国は住民の理解促進のため全国で初めて作成したQA集とともに、県民に直接説明した後に原子力防災会議で了承
- 柏崎刈羽原発における原子力災害の発生を想定した被ばく線量シミュレーションを実施し、結果を公表
- PAZの一部でIAEAの基準に達する可能性があるが、県避難計画で定める対応（PAZ住民は予防的に避難等）により、基準を上回る被ばくを避けることができると見込まれる。（UPZは全域で基準以下）
- 住民避難を円滑にするため、原発を中心に6方向へ放射状に避難する幹線道路等の整備を国に要望
- 国と県の協議の枠組みにおいて、当面優先すべき整備箇所について全額国費により整備することを確認。現在、調査中
- 幹線道路に繋がる道路の整備について、原発特措法の対象地域の拡大等を要望。国は対象地域をUPZ全域へ拡大する方針を表明
- 要配慮者等が屋内退避する施設への放射線防護対策事業の対象の拡大を国へ要望し、UPZ全域へ拡大
- 一般住民も含め屋内退避ができるよう、学校体育館への防護対策について、国は整備推進の方針を表明
- 能登半島地震を踏まえた防災対策検討会の意見を踏まえ、電力事業者からの速やかな情報連絡を徹底

その他

- 電源三法交付金の交付対象地域の拡大等を国へ要望